

はじめに 2

第一章 道具の諸相

道具が育つ	8
侘び道具と合羞	14
見えぬわざ	20
選抜を看取する	27
「壁」のかなた	34
見通す予感	40
自作の道具を挿入する	46

第二章 文化の諸相

及台子に想う	50
風韻を聴く	57
手紙を取り交わす	63

建水から茶席を看る	11
六畳という空間	17
端正のいきつくところ	23
井戸茶碗祭器説を鳥瞰する	31
音を求める	37
蓋置の段階	43
高度化と単純化	53
異文化受容の自己表現	60
粗食ゆえの豊潤	66

第三章 練達の諸相

日本化する力	69
座る力	74
生活を律する	80
差分能力の法	86
相互研修のすすめ	92
虚心に学ぶ	98
修正する力	104
顔を創る	110
質問とつり合う	116
不首尾からの回復を味わう	122

啐啄同時	77
端正を超えたところ	83
プロフェッショナル・オーデイエンス	89
四段の思想	95
逆勝手の意味処理	101
点前を心眼で見る	107
炭の暗黙知	113
ノーフィードバックの意味	119

第四章 茶事の諸相

茶事ハイ	126
インスタ映えを嗤う	132

薄茶の切り換え	129
莊物点前に学ぶ	135

第一章
道具の諸相

大寄せの指針	138
亭主ひとりの茶事	144
見えない所作を磨く	150
あらためる	156
大蓋の馳走	162
多様体	169
料理を脱する	175
所作を聴く	181
水屋詰への成長ベクトル	187
第五章 茶の湯につらなる面影の諸相	
二物仕立て	141
正直	147
鉄味	153
心理的飽和	159
ネガティブティを起点とする	165
素麵茶事のシミュレーション	172
楽しさは細部に宿る	178
点前の脱馴化	184
同世代の意識	195
書籍をつうじて私淑する	201
見立ての力——服部さんの後日談	208
あとがき	212
八景棚と海仙宗匠の面影	192
深さの比例	198
後見の美術商	205